

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成26年度第1回情報教育研究委員会議事記録

- I. 日 時：平成26年7月25日(金)午後5時～午後7時
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 参加者：斎藤委員長、玉田委員、照屋委員、西垣委員、大場委員、岡田委員、牧野委員(Skype)
大原トバ伊
事務局：井端事務局長、野本(記)

IV. 検討事項

1. 委員の紹介

- ・ 新委員長と2名の新委員が紹介された。

2. 今年度の事業の進め方について

- ・ 親委員会では、人口70億人時代のネット社会を創造するための「フォーラム」の企画をとりまとめることにしている。高校生、大学生がこれから社会にどのように向きあうか、有識者、学識経験者によるフォーラムを2年間実施してきた。27年度に向けてフォーラムの在り方について再検討することにしている。また、4つの分科会の事業について確認し、調整することになっている。
- ・ 情報リテラシー・情報倫理分科会では、昨年度に情報リテラシーのガイドラインの見直しを行った。そこで、教育・学修方法の取り組み、学修成果の達成度評価の基準及び測定方法について研究することになっている。
- ・ 情報専門教育分科会では、様々な領域でイノベーションに関与できる産学連携の実践的な学修として、課題発見・問題解決型のPBL授業を充実し、主体性を引き出し・伸ばす教育プログラムのため、産業界と連携した分野横断型のオープン・イノベーションによる学修の仕組みを研究することになっている。
- ・ 分野別情報教育分科会では、30分野における情報活用教育の実践例を収集・紹介することになっている。また、情報活用教育の普及・推進を図るための学修を教員連携の中で組織的にどのように展開することが望ましいかモデルを研究することになっている。
- ・ 情報教育高大接続分科会では、高校教諭の情報担当指導力と情報活用能力を支援すること、教員養成課程での情報活用教育の推進策をとりまとめること、次期学習指導要領改訂に向けた情報教育について関係機関と連携して検討することになっている。

3. 今年度の進め方を踏まえて委員の意見

- ・ 情報リテラシについては、300名のクラスとなりプログラム授業が成り立っていない課題がある。
- ・ ICTを活用すること、情報教育をどのようにしたら良いのかについてきちんとサポートする必要がある。
- ・ 将来、ICT関連の職業に就く人のサポート、情報の科学から鍛えていきことで問題はないのか。ICTのユーザとしての人にはどうすべきか。
- ・ 情報社会で生きていくのに何が必要なのか、情報とは何なのかをきちんと位置付けて教育する必要があがある。
- ・ 社会と情報を学んできて情報専門でない一般の学生につながることをして、ICTの活用ではなく、情報の活用を考えるべきではないか。
- ・ 分野にまたがる教育をどのように構築できるのか。共通教科として問題解決につながっているのか。情報が社会の中でどのように役立っているのか、著作の考えなど中心に磨き上げる努力が必要ではないか。
- ・ 情報では、社会の構造と機能を考える、分析しながら問題点を見つけていくこと。
- ・ 情報の意味、戦略的に考える必要があるのか。

- リテラシーは文系では全てやりきれない現実がある。デジタル社会での市民権を得るデジタルシチズンシップ (デジタル市民としての資格・能力、デジタル社会の一員としてのふさわしさ)。最低限の生きる力から考えてはどうか。
- 学部では数学・化学・生物などを必修に情報はメールやツールの使い方であったが、情報は情報学の必修学問としてどのように捉えてつくっていくのか。倫理をはじめネットワークの仕組みや画像処理など教えているが情報とは何かが必要ではないか。情報学が知の基盤として位置付けられてきている。
- 情報はコンピュータ以前からあった。ネットやマイコンなど伝達的手段ができ、情報・処理・伝達が社会基盤となっている。時間と空間と情報として細かく切ってはいけない。情報の定義として01のものだけでなく広く捉えることが必要。
- パフォーマンスのアピールなども情報ではないか、身につけ、発信し、未来に羽ばたくことが想定される。
- 情報の課題として、外からの攻撃に強いが内からの攻撃に弱いことや下請け孫請けの待遇などがある。
- 企業のレベルと学校教育のレベルの差の部分で、産業界との協力が求められている。社会の変化を読み解く力が必要となっている。
- フォーラムは学生に魅力が持て、有識者に重要性を理解いただく必要があり、どのようなコンセプトでシナリオを考えたらよいか検討したい。
- ネット上で様々な議論を交わして政治をかえていくこと、ネット社会における正義とはなど、ビッグデータから価値あるものを見つけること。情報の中から見つけ出すこと、データを読み解く力。
- 難しい問題に対して適切なところで入ると伸びていく、それを教育のなかでどのように問題意識をもたせられるのか課題ではないか。

4. 今後のスケジュール

- 次回の委員会は11月21日17時30分からとして、それぞれ「どのようなコンセプトでシナリオを考えたらよいか」メモを持ちより検討することにした。